

ほっとらいん ふろむ ほんごう

国民の生き様にかかわる在宅医療 「第3回在宅医療推進フォーラム」開催

2007年11月23日(金)、あいち健康プラザ(愛知県知多郡)において第3回在宅医療推進フォーラムが開催された。

このフォーラムは全国の在宅医療関係者によって11月23日に毎年開催される。今回共催団体が2つ増え、NPO 法人在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク、NPO 法人日本家庭医療学会、NPO 法人日本ホスピス・在宅ケア研究会、社団法人全国国民健康保険診療施設協議会、日本在宅医学会、日本在宅医療研究会、日本プライマリ・ケア学会の共催となった。

基調講演Ⅰは日本在宅医学会と日本プライマリ・ケア学会の会長を務める前沢政次氏による「在宅医療の課題」で、在宅医療を促進するために在宅医療の素晴らしさを伝える教育が必要であると主張した。

続いて在宅医療推進フォーラムの共催者である7団体の代表者による討論会&ランチョンディスカッション。白浜雅司(日本家庭医療学会理事)氏は在宅療養支援診療所の3割の看取り数が0であることを取り上げ、地方においてはそもそも利用者数が少なく、死亡数も少ないことを認識してほしいと訴えた。

太田秀樹(医療法人アスミスおやま城北クリニック)氏による7団体の共同声明を経て、「在宅医療推進会議」の中間報告では黒岩卓夫(在宅医療推進会議副会長)氏が「看取りのある在宅医療」を目標に掲げ、その実現のためには訪問看護師との協力が不可欠である、と



ゆきぐに大和病院での経験を元に語った。

辻哲夫(厚生労働省顧問)氏による基調講演Ⅱ「医療政策の展望と在宅医療」では団塊世代の高齢化問題を取り上げ、医療費抑制はそれ自体が目的なのでは決してなく、地域を中心としたケアシステムを作成した結果として抑制されるということを強調。

第二部として鎌田實(諏訪中央病院名誉院長)氏、黒岩卓夫氏、宮崎美子(女優)氏、大島伸一(国立長寿医療センター総長)氏を出演者とするシンポジウム「人生を支える医療 地域がはぐくみ つながいのち」が行なわれた。これは在宅医療を特集した番組の収録も兼ねており、在宅医療についての質疑応答や黒岩氏の往診映像の紹介を挟みつつ進行了た。この番組は2008年2月3日18～19時にNHK教育テレビで放送予定。

最終的に600名を超える参加者を数えたフォーラムは大島氏による「明るい高齢社会のために全国民が高齢社会の到来を自分のことと認識し、活動する必要がある」との言葉で締められた。